

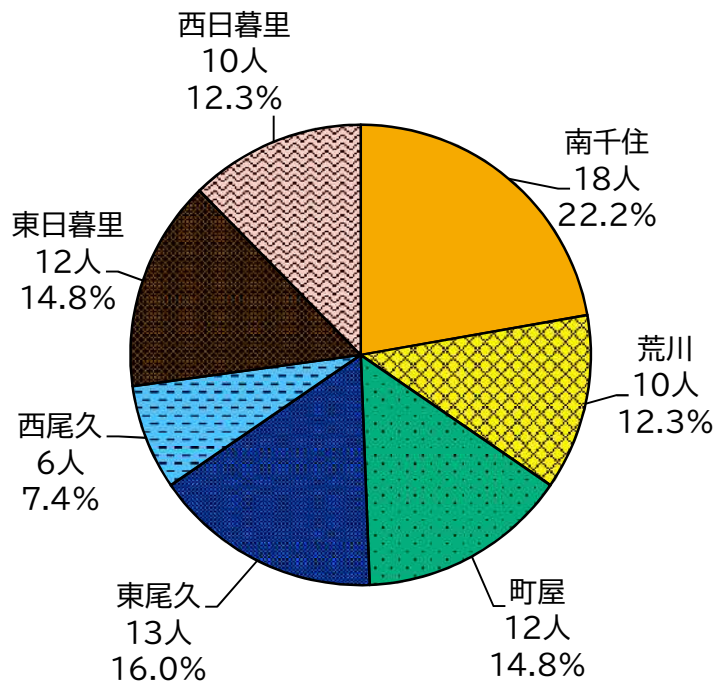
令和5年度第3回 あらかわ・Eモニターアンケート結果

◆調査の概要

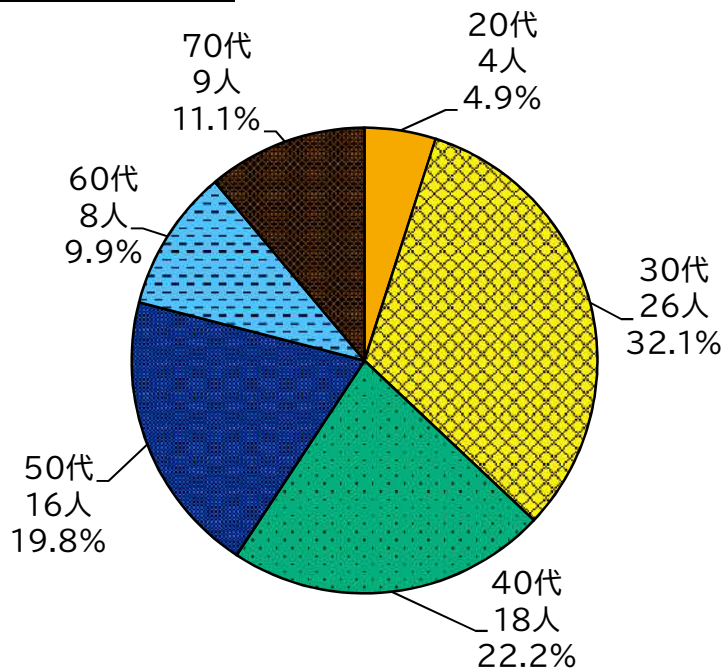
- ① 調査項目 投票率向上や若年層のための選挙啓発について
- ② 調査対象 令和5年度あらかわ・Eモニター 100人
- ③ 調査期間 令和6年1月5日(金)～1月22日(月)
- ④ 回答数(率) 81(81.0%)

n=比率算出の基数(サンプル数)、また、回答比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないものがある。

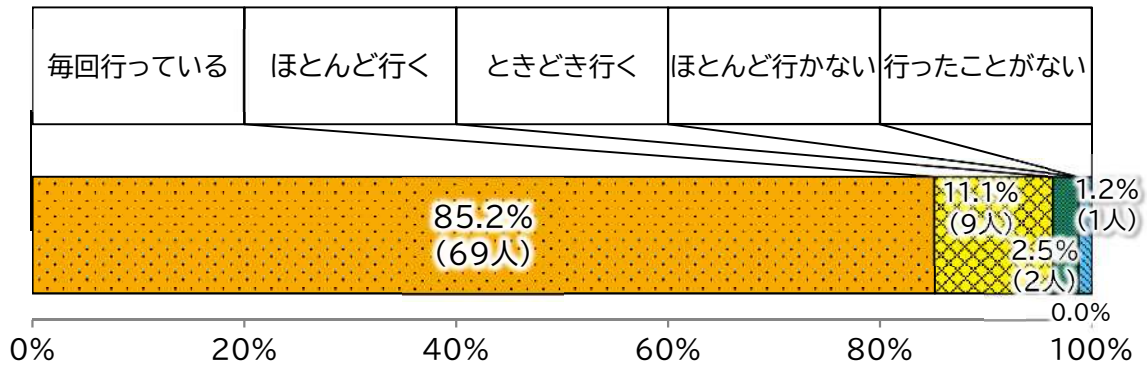
回答者地域別構成比 n=81



回答年齢別構成比 n=81

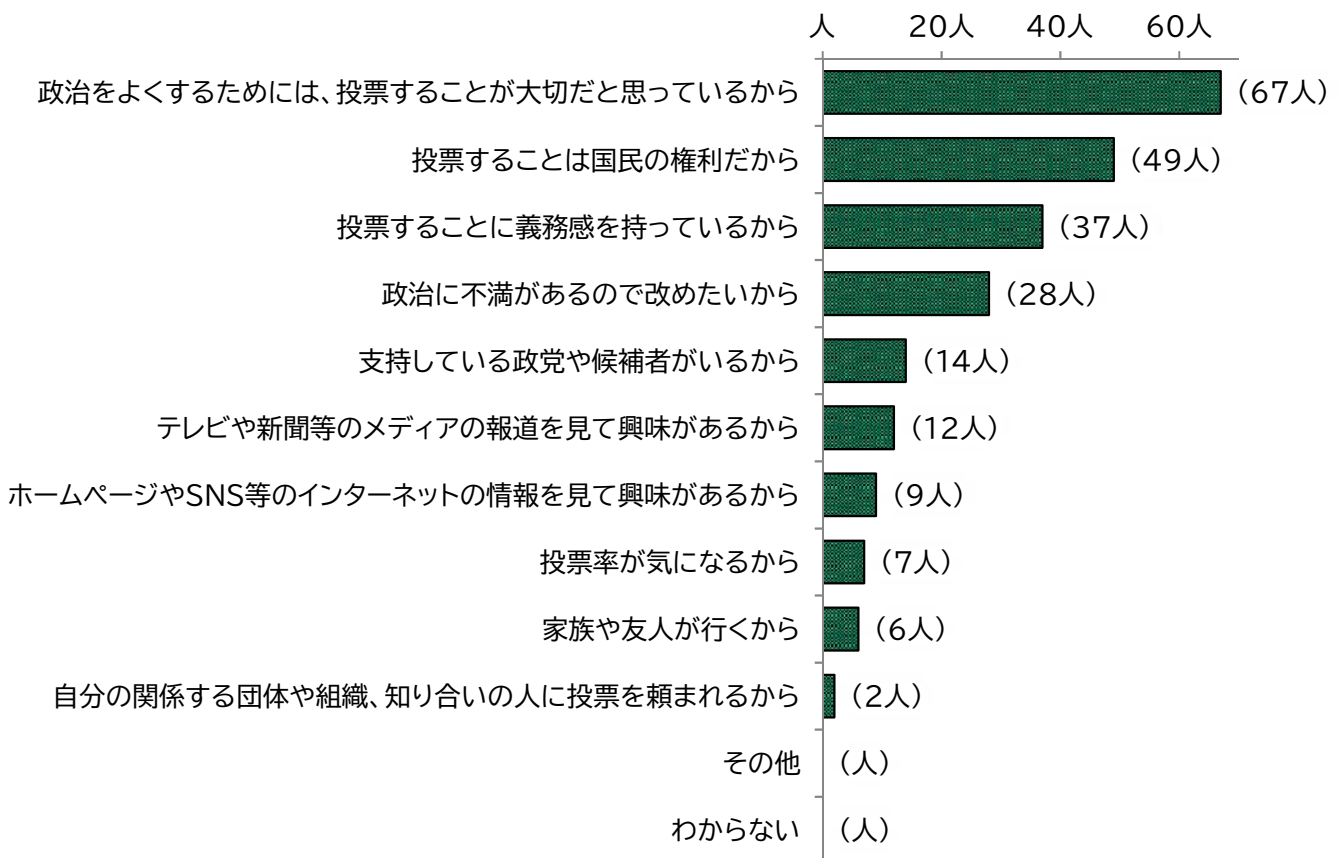


問1 あなたは、投票に行っていますか？ n=81



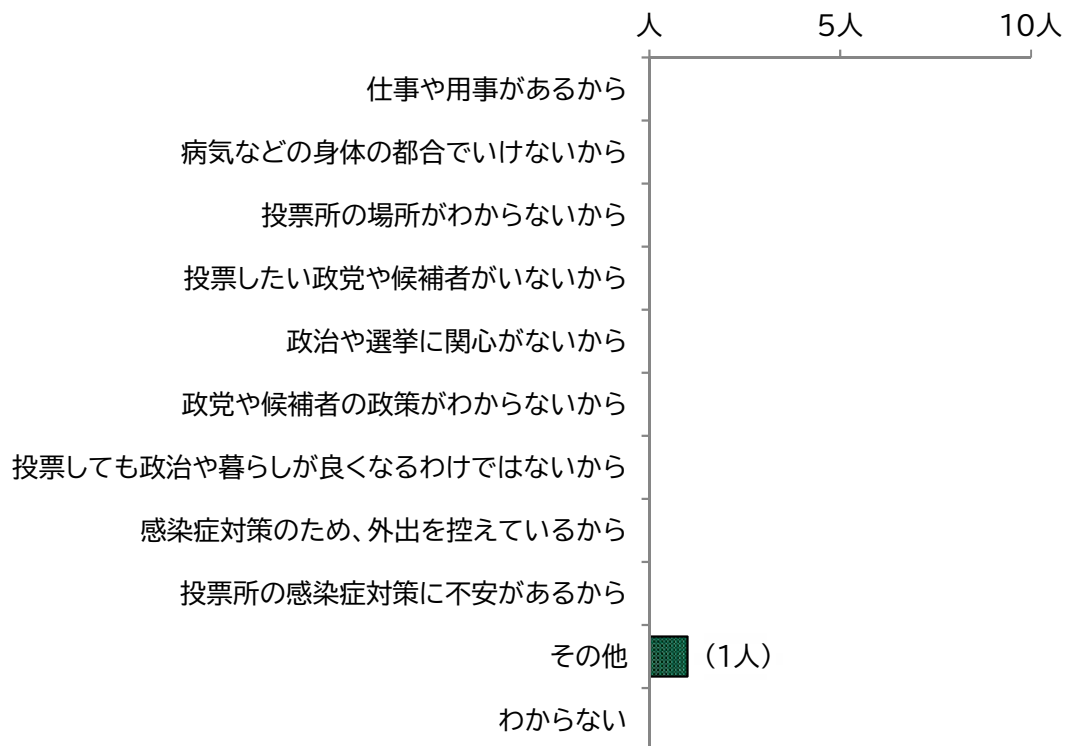
(問1で「毎回行っている」、「ほとんど行く」、「ときどき行く」とお答えの方にお伺いします)

問1-1 あなたが投票に行く理由は何ですか？(複数回答可) n=80

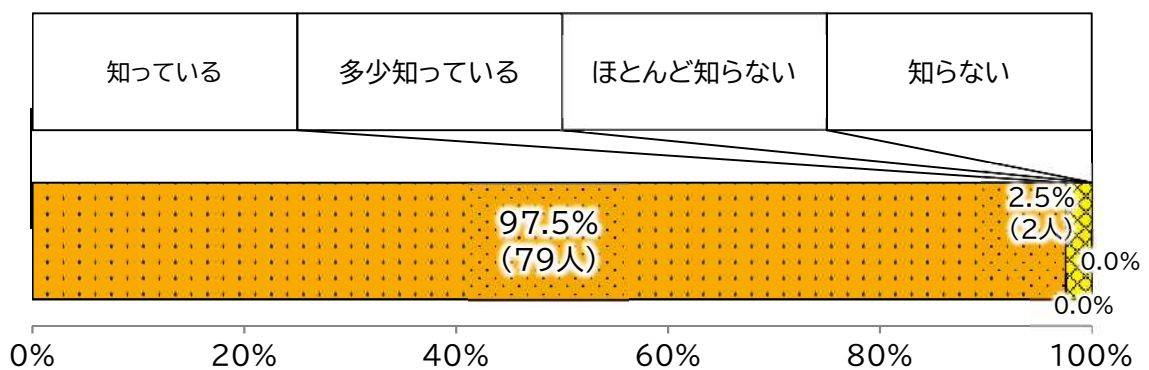


(問1で「ほとんど行かない」、「行ったことがない」とお答えの方にお伺いします)

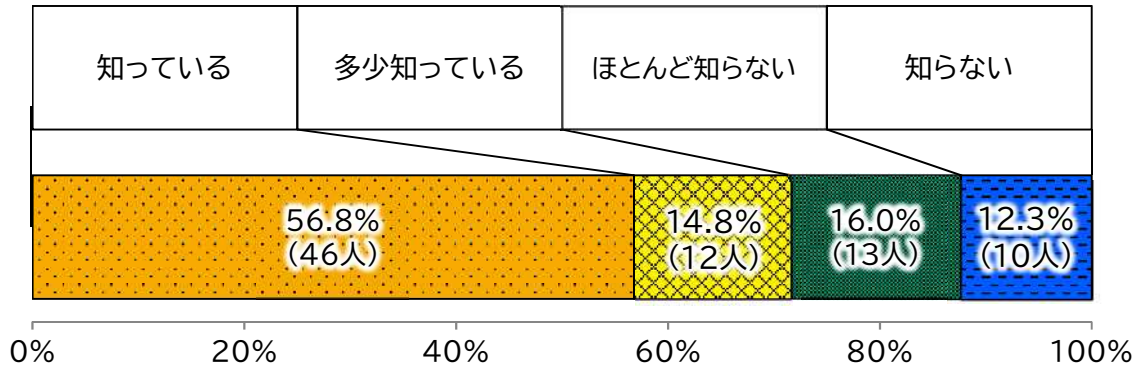
問 1-2 あなたが投票に行かない理由は何ですか？(複数回答可) n=1



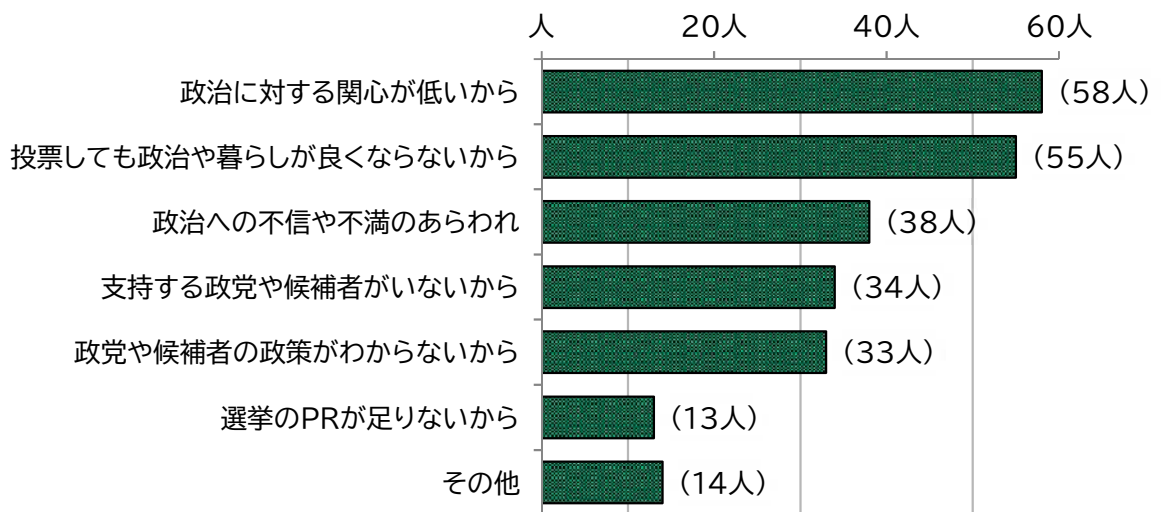
問2 あなたは、投票日当日に投票へ行けない方のための「期日前投票制度」をご存じですか？ n=81



問3 あなたは、出張や旅行などで他の市区町村に滞在している場合や病気やけがで病院に入院している場合でも投票できる「不在者投票制度」をご存じですか？ n=81



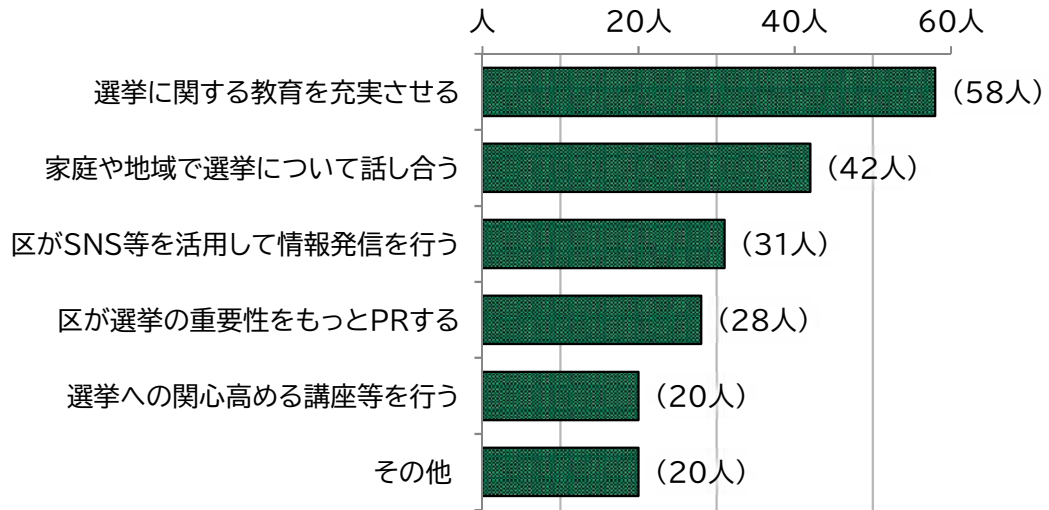
問4 選挙の投票率が低いことについて、その原因として考えられることは何だと思いませんか？(複数回答可) n=81



【その他・主な記載内容】

- ・ 現状生活をしていて、特に困っていることがないから
- ・ 投票したことが自分達に何の利益をもたらすか、実感がないから
- ・ 若年層の益になる公約、施策があまりないから
- ・ 立候補者が若くても当選するのは年配の方ばかりだから
- ・ 1人が投票しても状況は変わらないというあきらめがあるから
- ・ 投票したくても、投票するために特定の場所に特定の日に外向くのが大変だから
- ・ 投票に行くのが面倒だから、ウェブ投票等ができないから
- ・ 期日前投票をよく知らないから など

問5 選挙への関心を高め、投票率の向上を図るためにはどのようにすればよいと思いますか？(複数回答可) n=81

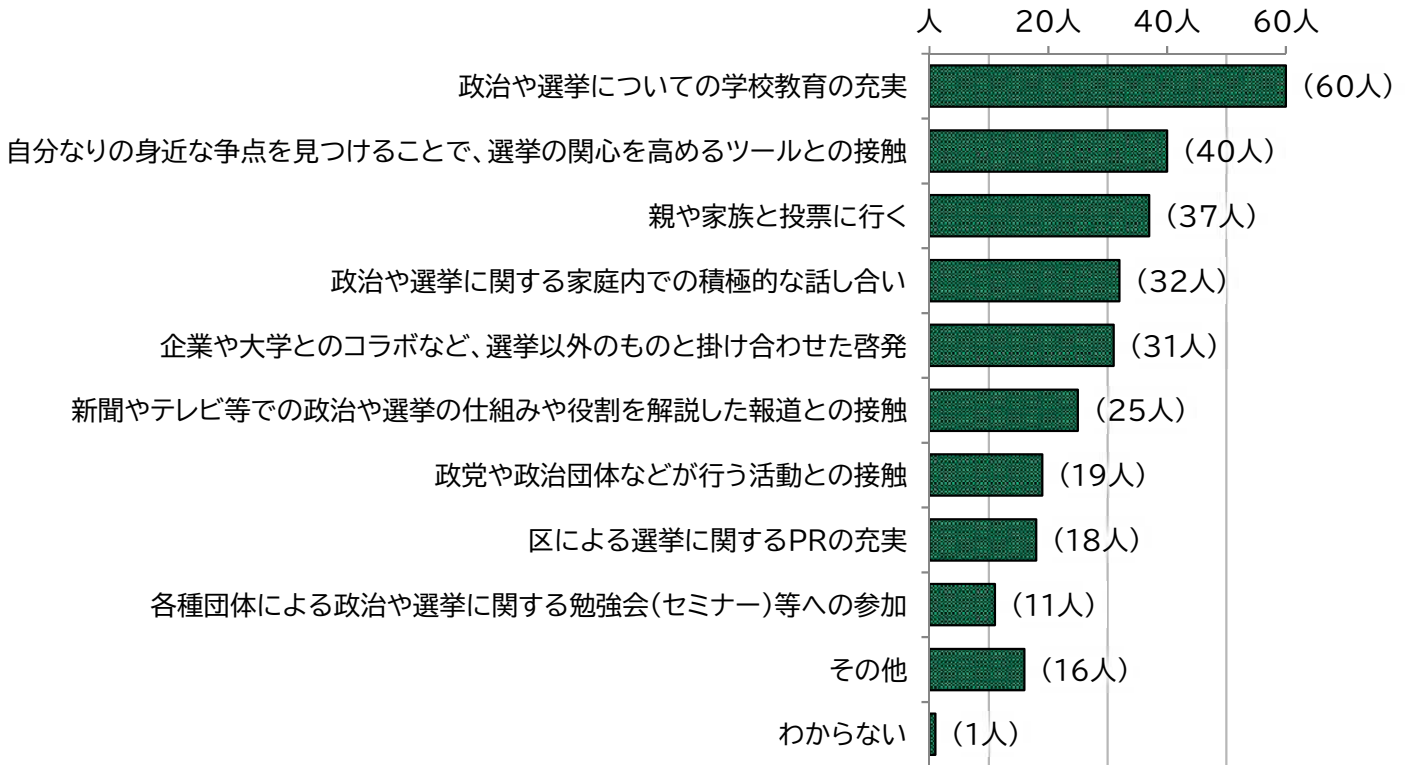


【その他・主な記載内容】

- ・ 期日前投票所の場所を増やすか、駅の中や大きなスーパー等、人が多く集まる場所にする
- ・ インターネット投票を解禁する
- ・ 町屋駅前や三ノ輪電停などでティッシュとビラ配り
- ・ 生活に直結していて効果が見える仕組みになっているという実感が湧くような啓発を子ども時から行う
- ・ 政治に関心を持ち行動することが普通であるという雰囲気を学校教育で作り上げる
- ・ 同じ人だけが投票していると状況が変わらないということの周知
- ・ 「選挙に行ったら抽選番号がもらえて、後日抽選で当たりが出る」のような選挙に行くメリットがあるような仕組みをつくる
- ・ 投票の記録が残って、それが何らかの形で還元される(ポイントが溜まったり、何らかの優遇やサービスが受けられる)ようにする
- ・ 候補者が具体的に実現できることを詳細にPRする
- ・ 政党に政策の具体化像を示すことを義務付ける
- ・ 中立な機関が、各政党の主張を具体化し、生活にどのような影響があるのかを示すなど

問6 全体の投票率と比べると若年層の投票率は低い傾向にあります。今後、若年層の政治や選挙に関する意識を高めるためにはどのようにしたらよいと思いますか？(複数回答可)

n=81

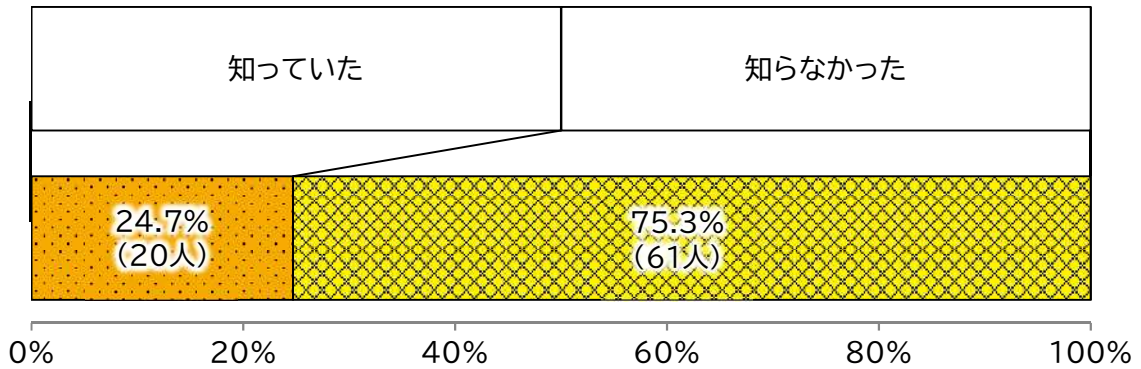


【その他・主な記載内容】

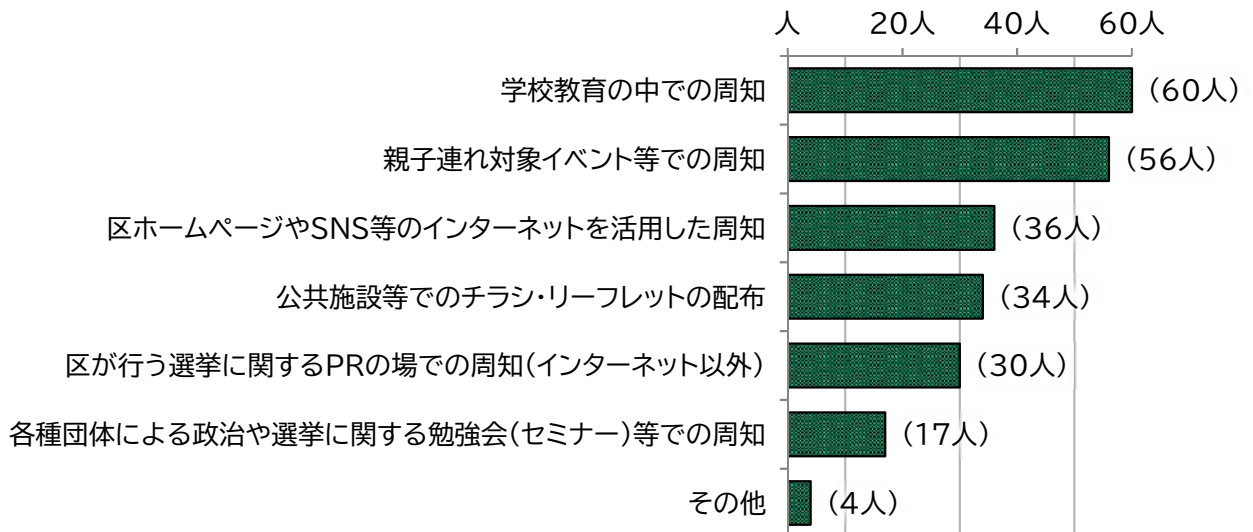
- ・ 学校で投票する所が多いと思うので、体育館での無料のステージ(落語や楽器演奏など)を実施する
- ・ 投票所の係の人がご年配ばかり。若い人が入りにくい雰囲気(若い人がくる場所じゃないと思われる雰囲気)がある。若い方を増やした方がいい
- ・ 学校に投票箱を置く
- ・ ネットで投票できるようにする
- ・ 投票でポイントがたまるようにする
- ・ 投票済証を可愛くする、地元の商店で割引したりなどのインセンティブをつくる
- ・ 若者にも積極的に立候補してもらう
- ・ 若者にどんな政治をしてほしいか、どんな施策に期待するかなど生の声を聞く
- ・ 投票することは、若者自身が国を変えられる重要な機会であること、カッコいいことという印象を与える
- ・ 浮遊層の若者が投票することで当選するメンバーが変わり、今の状況が変わるということをアピールする
- ・ SNS を活用した PR など

問7 平成28年6月より、一緒に投票所に入ることができる子どもの範囲が、それまでの幼児から、18歳未満の者に拡大されました。総務省の調査では、子どもの頃に有権者と一緒に投票所に行ったことのある人は、その後投票に行く割合が高いという結果が出ています。

一緒に投票所に入ることができる子どもの範囲が拡大されたことは知っていましたか？
n=81



問8 子どもの頃に有権者と一緒に投票所に行ったことのある人は、その後投票に行く割合が高いという結果を踏まえて、このことを多くの人に知ってもらうためには、どのように周知していけばよいと思いますか？(複数回答可) n=81



【その他・主な記載内容】

- ・ ありとあらゆる場所での PR 活動
- ・ 子どもを投票所に帯同させようがさせまいが、親が投票に行く家庭の子どもは有権者になったときも行く割合が高いのではと思うので、上記を周知させる必要性をあまり感じない など

問9 子どもたちが将来の有権者になった時の投票行動に結びつけるために、今行うべき効果的な方法は何だと思いますか？ご意見をお聞かせください。(自由記入)

※主な意見

学校教育

- ・ 政治は身近なものである、という教育をもう少し学校現場で行っていく。(50代)
- ・ 政治が直接自分たちの暮らしに関わっていく事を小学校の時から教えてもらいたい。勉強も大事ですが、実際に興味を持つように教えてもらいたい。政治家と関わる機会を持つとか、そのような場に見学に行くとか。(30代)
- ・ 学校で選挙や政治に対する教育を充実させて、若い頃から感心を高める施策を積極的に行なってほしいと思います。(60代)
- ・ 小学、中学、高校の授業カリキュラムに年間12時間程度(月1回くらい)組み込み、行く事が当然のような文化の定着が出来たら良いと思う。(50代)
- ・ 学校での教育(模擬選挙をやるなど)(40代)
- ・ 政治が生活に身近で重要なテーマであることを理解させるための学校教育。投票結果のシミュレーションができるモデルの提示。(60代)
- ・ 家庭環境は様々だと思うので、学校教育の中で政治への関心を高めさせること。また世界の若者の政治参加など、同年代でも自発的行動や考える事が未来へ、また自分たちに繋がっている事を教えてあげてほしい。(30代)
- ・ 学校現場で、ゲームをする(条件をつける、財政はこれぐらいある、市民のうち何%が高齢者、出生率はどれくらいなど)。自分だったらこんなことをマニフェストに掲げるといふのを考えさせる。(30代)
- ・ 学校教育の中で、期日前投票の具体的な期日前投票所の場所や時間などを教えることが効果的と考える。(50代)
- ・ 選挙に行くことが当たり前で自分たちの生活に直結しているのだという学校教育が必要。(40代)
- ・ 学校での政治や投票についての勉強。投票が自分の権利という事を知ることが大切かなと思います。
- ・ 選択肢にもあるように、学校教育の中で触れる。模擬選挙などを試みる。(60代)
- ・ 小学校から高校まで毎年のカリキュラムに選挙に行くべき理由、政治のあり方、政党や政治家の選び方、政策具体例を用いた自分ごとにするための理解絵図等の教育をする。単発ではなく幼少期から毎年必ずやっていけば、子どもはそういうものだと思って育つはず。(40代)
- ・ 社会をよくしていくための行動が、その一票の重みにある事を感じてもらうために、学校教育など公の場で行っていくことは大事だと思う。(50代)

- ・ 学校教育の中で模擬投票やディベートを積極的に取り入れ、意見や考えを言葉として発信する力と、異なる意見に耳を傾ける力を養う。そのような取り組みを持続的に続けることで、多様な意見が出る選挙にも興味をもつようになると思います。(30代)
- ・ 学校現場などで世代間の利害が対立する政治課題があることを周知する。(60代)
- ・ 生徒会の選挙などではすでに行われているようですが、学校教育現場で応用できるものはできるだけ選挙と同様の投票形式にしてみるのはいかがでしょうか。(50代)
- ・ 大人達は公の場で選挙への関心を語る事がタブー化してしまっているのです、子どもの日常の場である学校などで、もっと「普通に」選挙のことを話せる雰囲気作りが必要と思う。(40代)
- ・ 民主主義とは何か？政治とは何か？学校教育の徹底です。(70代)
- ・ 学校教育で日本の近代史を教えていない。歴史認識と正しい国民意識を教えるべき。(70代)
- ・ 子どもたちには、18歳以上のすべての国民に投票権があるということがいかに貴重で、かつ民主主義国家として重要なことなのかを選挙のたびに学校で周知して欲しい。(30代)

家庭での教育

- ・ 親が政治に興味を持ち、その姿を子に見せることだと思います。(40代)
- ・ 各家庭での教育。投票に行くのが当然という事への理解と行かない事が恥ずかしい事だと示す。(30代)
- ・ 小さい頃に選挙があると親と一緒に行くことが当たり前でした。大人になり選挙権を得た時も家族で一緒に行っていたので、とても身近に感じていました。身近にいる家族が一緒になって行くと、行くことが当たり前という感覚になるのではないかと思います。(30代)
- ・ 親が政治家に肯定的になること、親が選挙は自分たちの生活をよりよくするものだと認識し選挙に行っていること、家族仲がいいこと。(30代)
- ・ 子どもたちの親の投票率を上げることがいま1番行うべきことだと思う。子は親を見て育つ。(30代)
- ・ 模範となる親や保護者が投票している姿を見せること。(30代)
- ・ 家庭内で政治や政策について話し合う。日常生活で政治と関わりのある事柄について(公共施設やサービス、システム等)親や大人が積極的に指摘し、政治次第で変わるということの意識付けを行う。(30代)
- ・ まず、親である大人たちが毎回行くこと。それが当たり前の認識を小さい頃から植え付けること。大人たちが周りにも選挙に行くよう進めること。(30代)

選挙の周知

- ・ 台湾などの投票率が高い国の事例などを知ること、見栄えのいい投票済証で SNS でアピールしてもらう。(40代)
- ・ 身近なもので大切なものと周知させる。(50代)
- ・ 選挙前の選挙公報を子どもにも分かりやすく配布し、学校で一緒に考えたり家庭でも話し合える機会を作る。(30代)
- ・ 効果的かはちょっと難しいですが、テレビから流れる情報だけでなく、もっと情報を耳、目から入れる。(30代)
- ・ インターネットまたは SNS などを活用し選挙をもっと身近なもの、若者でも触れやすいものにしていくこと。(50代)
- ・ 政治への無関心から選挙に行っても何も変わらないとってしまうため、SNS やメディアを通じて、もっと選挙に関心をもつような投稿や報道を行う。選挙広報の工夫。この政党になると、こんなふうになるなどわかりやすく。(50代)
- ・ 区営掲示板等への貼紙で呼びかける。(40代)
- ・ 著名人に呼びかけてもらう。(60代)
- ・ 候補者情報の一覧のサイト。(40代)
- ・ 投票することは、若者自身が国を変えられる重要な機会であること、カッコいいことという印象を与えるべき。テレビや新聞を見る若者は少ないので SNS を活用した PR が必要。若者にどんな政治をしてほしいか、どんな施策に期待するかなど生の声を聞くのも良さそうだと思います。(30代)
- ・ 周知を SNS やテレビだけでなく、若者が集まりやすい場所でもっと PR をしていく。そして政治を身近に感じてもらい、この先の時代は自分たちのものと実感できる様、大人も一緒に働きかけていく。(50代)
- ・ SNS などの積極的な発信(60代)

選挙の意義を伝える

- ・ 投票することで政治が変わる具体例を示すこと。既に若年層の投票率が低い現実があるのは、諦めが何よりも大きいと思う。質の高い若手の立候補者が現れ、当選してこそ政治に期待が持てる。(60代)
- ・ 税の勉強など、自分に関わることから教えて選挙に行かないと将来困ることになるという身近な話題から興味を持ってもらうことが必要だと思います(20代)
- ・ 選挙に投票に行くことで、自分がどう参加できるのかなど、政治に対する教育を身近に感じやすい方法で伝えること。又、政治に興味を持てるよう、希望が持てる政治がまず必要だと思います。(40代)
- ・ 区内の道路工事や信号設置、公園の管理等、政治や議員がいたから良くなったという事例

を教える。(40代)

- ・ 投票することで何が得られるのか、どう変わるのか、費用対効果ではないが、行動に伴って起こる自身へのメリットのようなものを分かりやすく伝えるべき。(30代)
- ・ 現状が変わらないにしても、選挙で自分の意思を伝えないと、今後も何も変わらないことを自分の子どもには伝えていきます。例えば、本当に入れたくない場合は行かない選択ではなく、白票を入れても良いと話してみたりしています。そのくらいの話であれば学校の教育のなかで話しても良いのではないのでしょうか。(40代)
- ・ 政治について話し合う機会や勉強する機会を増やす。日常生活にどんな影響があるかなど身近に感じる体験や経験を増やす。子どもたちがどのように暮らしていきたいか大人が聞く機会を増やす。(40代)
- ・ 投票することは、結局自分のためになることを、学校、親がよく教えること。(70代)
- ・ 日常生活において、何らかの形で政治がからんでいることを認識して貰えるようにする。(70代)
- ・ 学校や家庭で政治や選挙について日常的に話題にすること。(50代)

啓発イベント

- ・ 各家庭での子どもへの教育のため、大人への選挙の理解促進のための機会を作る(きっかけとして区で配布できるものがあればお土産的なものがあるイベントの開催)。(30代)
- ・ 子どもたちと各政党代表者との対談を行う。(親も観覧者側で参加してもらい、子どもが意見している場を見ることで、今度一緒に選挙に行ってみようかとなる可能性があるのではないか)(30代)
- ・ イベント等で選挙への関心を高め、選挙の結果がどうなったのかを具体的に発信してほしい。(40代)

投票特典の付与

- ・ 投票することで、地域限定のSNSスタンプをQRコードで取り込めることや、地域の飲食店や店舗の協力を促し、割引券の配布などをすることで、地域の消費も見込めるかと思われます。(50代)
- ・ 投票した際のポイント制度の導入。(40代)
- ・ 目先のインセンティブが一番投票に繋がります。投票済票があら坊あらみいでかわいいとかそんな程度でいいので。(30代)

若者向けの政策

- ・ 成功体験が必要だと思う。現在の政治に期待できないことが投票率に如実に現れている。投票率をあげなければいけないが、若者が投票しても変わらないと考えているうちは難しいだろう。若者向けの政策を出すしかないのではないかと。(20代)

- ・ 若年層向けの政策の充実。現状は人数比率でそもそも高齢者が多いため、若者世代のことを考えた政策が少ない。議員の定年制度を導入するなどして若い議員を増やす。(40代)

その他

- ・ 我が家では、子どもたちを投票所の入り口で待たせて、親がかわるがわるで投票してきましたが、いざ、子どもたちが選挙権を持ったとき、彼らは最初の一回だけ投票に行き、あとは「自分が一人投票しても情勢は変わらない」と諦めて投票に行っていません。どれだけ固定票(特定政党支持の人たちの票など)があり、浮遊層がはいるとどれだけシェアが変わるのかなど、数字で見せる方法はどのようなのでしょうか。(50代)
- ・ 報道機関や研究機関が立候補者の所属政党や個人の公約を分析し係数化してみせる。例えば軍事にこの候補者は星5個力をいれる人で減税は星3個とか云々と視覚化して有権者が求める候補者選びの一助とするなどどうでしょうか。(70代)
- ・ 自分の投票が政策に反映していると身近に感じさせるため、選挙で公約した事柄の達成状況をHPなどで掲載する。(50代)
- ・ 子どもが、例えば校則などに素直に感じたことを発言し、行動することを抑圧しないこと。社会の中で、周りの雰囲気に合わせて生きることばかり教えているから、投票に行く若者が減っても当たり前です。(70代)
- ・ 子どものころから、大人による規制(安全に関するものを除く)を最小限として自主性を養う。特に学校の校則の見直しや、生徒の行動の細かい規制・集団行動の強制をなくし、他人任せでなく自己判断できるような大人を育てる。(70代)
- ・ 子どもの口から親に対して行くべきだと言えるような子どもへの啓発が、一番効果的だと思います。(50代)
- ・ 私は、いまだに投票の仕方が合っているのが、わからないまま毎回投票しております。それは誰からも教えてもらった事がないからです。私には、子どもが2人おり、1人は投票できる年齢になりいろいろ聞かれた事がありますが、私なりに伝えましたが果たして合っているかもわからないまま教えました。こんな曖昧な感じでいいのだろうかとも思います、(40代)
- ・ 選挙への行き方、案内の届き方などを教える。(20代)
- ・ 各国と比較した現在政治の勉強の実施(40代)
- ・ 政治に関する教育の充実、親世代に対する政治政策の効果実感(30代)
- ・ 期日前投票含め、誰もが利用する駅前で投票ができるようになれば、もっと簡単に投票するはず。(30代) など